

はやさかいち り づか
早坂一里塚

- ◇ 指定日 平成21年2月2日
- ◇ 所在地 箱石
- ◇ 所有者 個人

早坂一里塚は江戸時代に盛岡と宮古を結んだ「宮古街道(戸川通)^{へいがわどおり}」の一里塚のひとつです。尾根の上を通る旧街道の東西に二基一対の塚が、ほぼ完全な形で残されています。

江戸幕府は、主要な街道の一里を36町（約3.9キロメートル）と定め、石と土を盛った塚を築き、樹木を植えて街道を行きかう通行人の道しるべとしました。盛岡藩は寛永18年(1642年)に、閉伊郡の道法を42町（約4.5キロメートル）で一里と定め、7里（約32キロメートル）ごとに塚を築きました。宮古街道の一里塚は、慶安の頃(1648-51年)には、七里詰めで塚が19箇所との記録があります。

宮古街道は、閉伊川沿いや崖などの難所が多く、明治以後も繰り返し改修工事が行われたため、この一里塚だけが残っています。

盛岡・宮古間を二泊三日で歩いた、当時の旅の面影を残しています。

